

青少年防災キャンプ事例発表会

平成28年1月22日（金） 愛知県自治センター

趣 旨：防災キャンプの成果を普及するため、基調講演や事例発表を行う会を開催する。

参加者：67名（市町村行政関係者、学校関係者、防災団体等）

プログラム

13:00 開会（生涯学習課長あいさつ）

13:10 基調講演

「防災！子どもたちから地域へ、地域から子どもたちへ」
～合言葉は『命・支え合い・自ら動く』～

講師：名古屋大学減災連携研究センター・防災教育アドバイザー
独立行政法人国際協力機構(JICA)防災教育担当専門家 近藤 ひろ子 氏

- 防災とは「命が助かり」「みんなと一緒に生きていく」こと。「想定外」は必ず起こる。そのための対策が必要。
- 被災者の6割以上は学校に避難。避難生活と学校教育の混在。避難所行動や避難所運営のため、決めておくべきことは多くある。市町村避難所配備員が地域と交流し、学校の教職員が避難所への共通認識を持つことが重要。
- 防災は続かなければ意味がない。地域ぐるみで顔の見える関係づくりを行い、行政・学校・地域互いに助け合い、みんなで一緒に防災に取り組んでほしい。



14:20 シンポジウム 「『防災』を通じた学びを地域とともに」

▽事例発表

豊田市藤岡南中学校区防災キャンプ

～地域と「ともに生きる」、災害時に私たちにできること～

豊田市立藤岡南中学校 教諭 岩谷 智明 氏

豊川市桜木小学校区防災キャンプ

豊川市立桜木小学校 教頭 中嶋 桂 氏

▽意見交換 コーディネーター 近藤 ひろ子 氏

- パネリスト
- 岩谷 智明 氏（豊田市立藤岡南中学校教諭）
 - 梅村 光宏 氏（豊田市役所社会部防災対策課消防司令長）
 - 中嶋 桂 氏（豊川市立桜木小学校教頭）
 - 佐々木活朗 氏（豊川市桜木おやじの会副会長）
 - 高柳 幸央 氏（県防災局防災危機管理課主査）
 - 大石 益美 氏（県教育委員会生涯学習課課長補佐）

豊田市、豊川市の事例発表内容を基に、「学校が保護者や地域とどのような連携をしたのか」、これまで進めてきた防災キャンプを「今後どのように展開していくのか」という点について、各市の学校、行政、保護者の立場から意見をもらいました。また、会場からは今後学校と協働した防災キャンプを更に推進していこうとする行政からの質問や、学校教育の取組を地域に広げたい学校からの質問が挙がりました。地域住民の立場で学校・行政に働きかけて防災活動を行っている参加者からも「学校・地域の連携とネットワークづくりが必要だ」といった意見が出されました。「それぞれの立場にメリットがある活動を行う」、「始めは『ゆるい形』で実施する」そして「地域の実情に合わせ、顔の見える関係を作る」といった、多様な立場からの活発な意見交換がなされました。

16:00 閉会（生涯学習課主幹あいさつ）



平成27年度文部科学省委託事業「子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業」



愛知県青少年防災キャンプ 事業報告書

愛知県教育委員会では、宿泊を伴う避難所体験を組み込んだ防災教育プログラムをモデル事業として実施し、防災教育を通じて、子どもたちの体験活動の機会を作るとともに、学校・家庭・地域・行政が連携することにより、地域の絆を構築し、家庭や地域の教育力の向上を目指してきました。

平成27年度は、豊田市、豊川市に防災キャンプを委託し、2市において、各地域の実情にあわせ、防災の基礎知識を学びながら、防災キャンプを地域ぐるみで行うことにより、避難所運営におけるリーダー育成と被災時に必要とされる「地域のつながり」を意識したプログラムを作成し、実施しました。

1月には、その成果と課題を県内市町村の担当者や学校関係者、社会教育関係団体やボランティア団体の方々と共有し、これからの防災教育のあり方を考える事例発表会を開催しました。



愛知県

愛知県教育委員会

発行 平成28年2月 愛知県教育委員会生涯学習課

〒460-8534 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号 電話 052-954-6749

豊田市藤岡南中学校区防災キャンプ

～地域と「ともに生きる」、災害時に私たちにできること～

平成27年8月1日（土）～2日（日） 豊田市立藤岡南中学校

趣 旨：東海、東南海地震で震度6弱が予測されている中で、子どもたちが避難所生活を通して起こりうる問題を自ら体験することで自ら考え、HUG（避難所運営ゲーム）、炊飯、PHV運用を通して、防災意識を高める。また、災害時に地域の方や各種団体の人と協力して避難所運営に役立つ生徒の育成を図る。

参加者：藤岡南中学校2学年及びその保護者と地域住民300人（藤岡南中学校生徒110人・職員20人・保護者50人・地域住民120人）

日 程

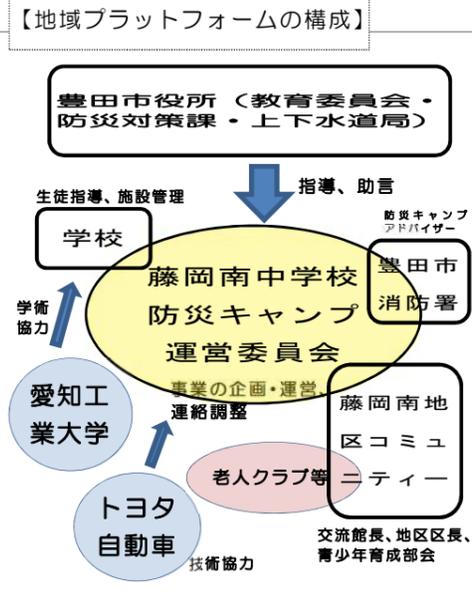
6月28日		地域合同防災演習
8月1日	13:00	応急救護訓練
	15:00	リアルHUG
	18:00	被災地支援に関する講演
	19:00	PHVからの外部電力供給
	21:00	シェアリング
	21:30	就寝準備
	22:00	避難所宿泊訓練
2日	6:00	起床・健康チェック
	7:30	朝食
	9:00	防災キャンプふりかえり・まとめ
	9:30	高評
	11:00	解散



参加者アンケートより：・中学生が地域を守るという姿勢に感動した ・子どもたちの一生懸命な姿に、大人も防災に向き合わないといけないと思った ・暑さの中、熱中症等体調不良が心配だったが、災害はいつ発生するかわからないので、厳しい時期に行う意味があると思った ・今後も開催されることを期待する。毎年開催されることで災害時対応も向上すると思う

成 果：市の防災担当局・上下水道局・消防署・交流館・自治会・PTA・老人クラブ・防災に関係する企業・近隣の商店等と連携して避難所運営をすることで、災害が実際に起きたときにいろいろな団体と協力して避難所を運営するノウハウを学ぶことができた。

今後の課題：学校・保護者・地域・企業が一体となって実施したが、打ち合わせ不足が明らかになった。避難所運営のため学校が地域住民、保護者とどのように連携していくのが課題。



豊川市桜木小学校区防災キャンプ

平成27年10月17日（土）～18日（日） 豊川市立桜木小学校

趣 旨：防災、減災のための具体的な行動についての学習や、避難所生活を想定した各種の体験活動を通して、力を合わせて災害に備えようとする意識を高める。

参加者：桜木小学校児童及びその保護者と地域住民 101 人（桜木小学校児童 34 人・保護者 35 人・未就学児5人・スタッフ 27人）

日 程

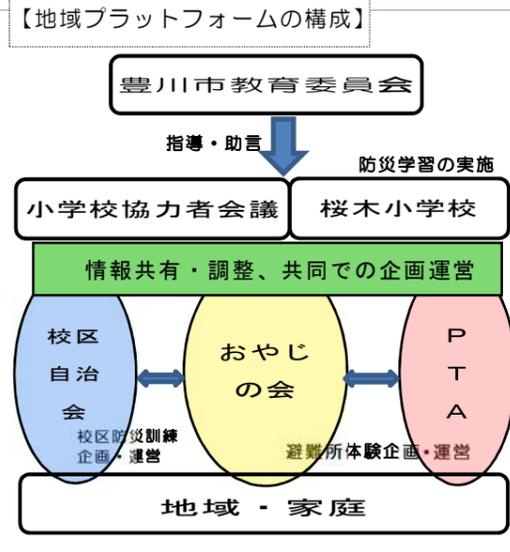
10月15日		防災教育講演会
避難所体験の会	15:20	開会行事
	15:30	起震車体験 炊き出し訓練・夕食
	19:00	救命救急講習・夜間歩行訓練
	20:20	講演（被災地での体験談）
	21:00	避難所宿泊訓練
18日	6:30	起床・朝食
	7:20	閉会行事
校区防災訓練	8:30	避難場所集合
	9:10	開会式
	9:30	炊き出し訓練・救護訓練・ 消火訓練・耐震性貯水槽取 扱い訓練
	11:00	閉会式



参加者アンケートより：・AED講習や被災地体験談がためになった ・起震車体験と視聴した被災映像のビデオが結びついて、より実感できた ・災害備蓄用パンの朝食を「まずい」と言った子どもたちに、本当に震災にあったらそんなこと言っていられないと教えられる良い機会となった ・(児童より)学んだことをお母さんたちにも伝えようと思った

成 果：防災講演会、避難所体験の会、校区防災訓練を関連づけて実施することにより、積極的な参加を促すことができた。子どもたちの主体的な動きを引き出すことができた。地域会合への参加等により、学校の取組を地域に発信することができた。

今後の課題：計画変更を見越して、参加者ニーズに応える臨機応変さと子どもたちに参画意識を持たせられるようなプログラム編成が必要。



成果と課題

平成24年度から始まった防災キャンプ推進事業は「青少年の体験型防災教育」と「地域の絆づくり」を目的に、各地域において多様な団体、行政、学校、家庭が連携をしながら実施されてきました。その中で「学校・行政・地域との連携」の必要性が確認されるとともに、「連携」の難しさが課題として挙げられてきました。今年度は、これまでの取組を基に、学校が核となり、おやじの会、老人会、防災担当部局、教育担当部局、大学、企業等、地域の特性を活かしながら「連携」を図った防災キャンプが実施されました。

しかし、「連携」にはまだ課題が多く、今後も継続して防災活動に取り組むために、構築した地域の絆を今後どのように発展させていくのが課題として示されました。

